

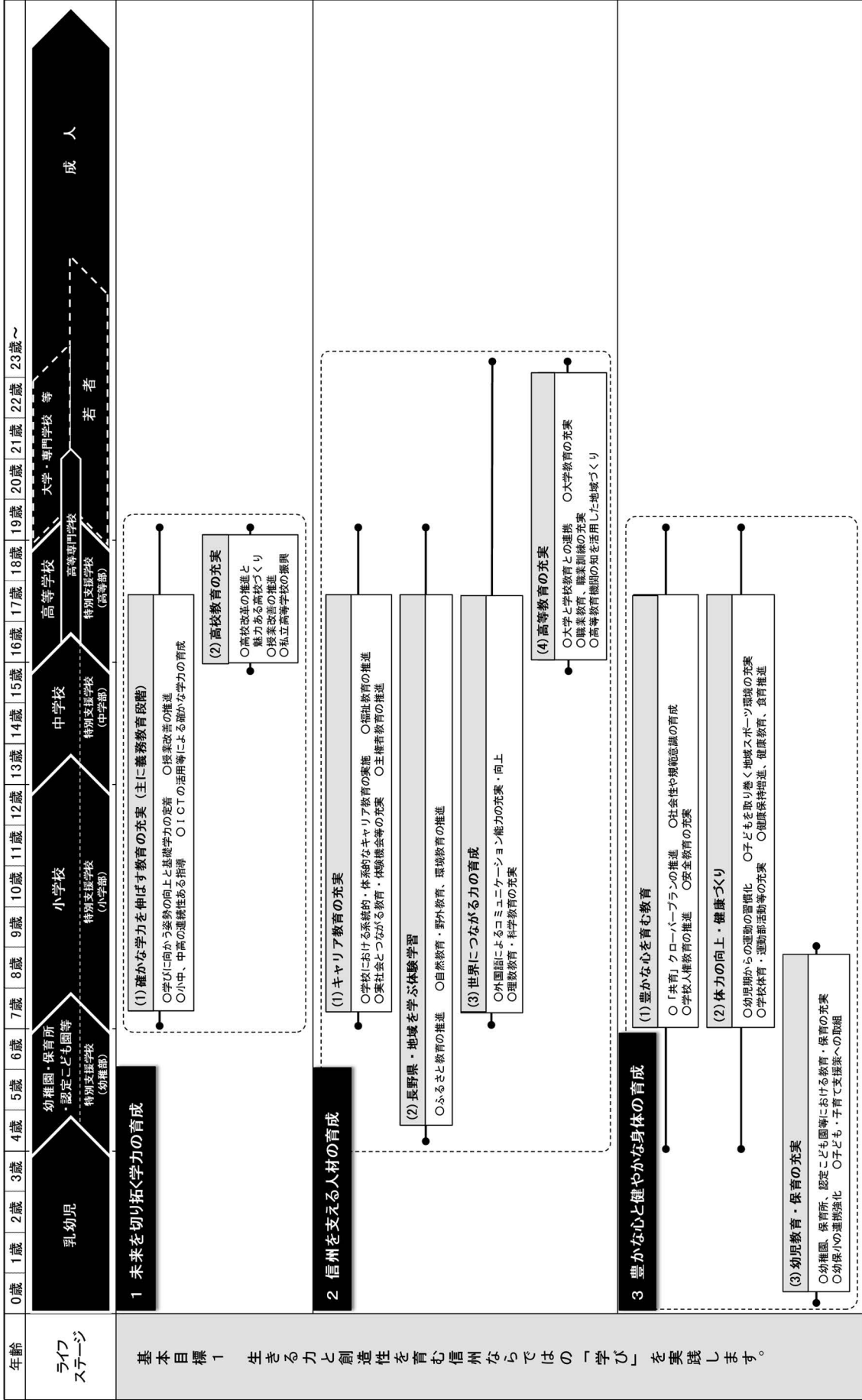
---

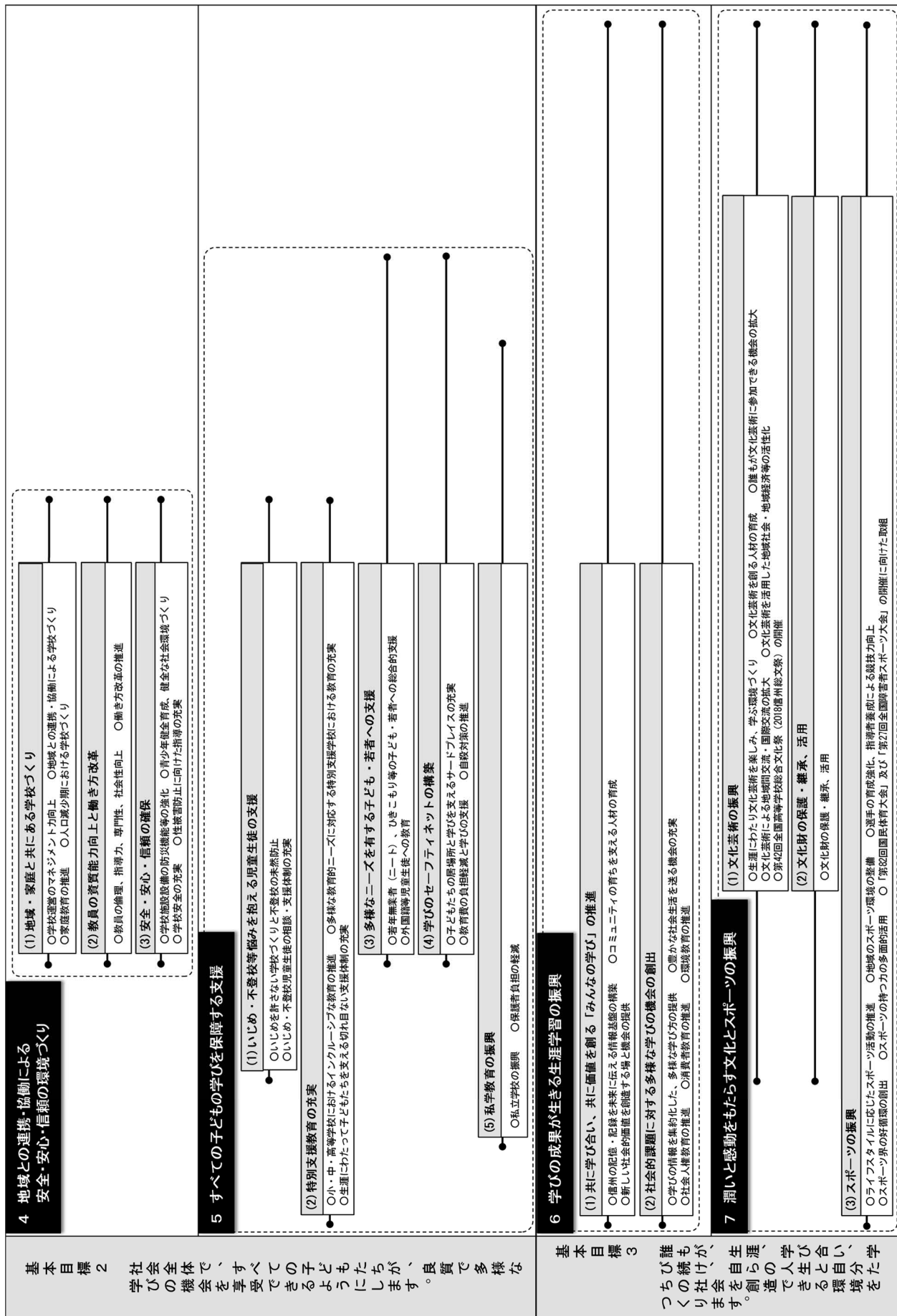
## 参考資料

---

- 1 個人のライフステージに対応する施策の体系
- 2 策定経過等
- 3 用語解説（五十音順）

# 1 個人のライフステージに対応する施策の体系





## 2 策定経過等

### 1 策定経過

#### (1) 平成 28 年度

| 月日     | 会議名等                      | 審議内容等   |
|--------|---------------------------|---|
| 8月25日  | 教育委員会定例会                  | ・「これからの長野県教育を考える有識者懇談会」の設置について                        |
| 9月12日  | これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第1回） | ・新たな計画の策定について<br>・長野県教育における問題意識について                   |
| 9月13日  | 総合教育会議                    | ・経過報告   |
| 10月3日  | 県議会文教委員会                  | ・経過報告   |
| 12月26日 | これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第2回） | ・これからの長野県教育を考える上で重要な視点について                            |
| 1月12日  | 総合教育会議                    | ・経過報告   |
| 3月6日   | 県議会文教委員会                  | ・経過報告   |
| 3月29日  | これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第3回） | ・10年～20年後を見据えた長野県教育のあり方について<br>・克服すべき長野県教育の課題（弱点）について |

#### (2) 平成 29 年度

| 月日     | 会議名等                      | 審議内容等                             |
|--------|---------------------------|-----------------------------------|
| 4月27日  | 総合教育会議                    | ・経過報告                             |
| 6月5日   | これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第4回） | ・第3次計画基本フレームについて<br>・コンセプト（案）について |
| 7月3日   | 県議会文教委員会                  | ・経過報告                             |
| 7月21日  | これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第5回） | ・第3次計画構成イメージについて<br>・重点政策たたき台について |
| 8月31日  | これからの長野県教育を考える有識者懇談会（第6回） | ・第3次計画構成（案）について<br>・重点政策たたき台について  |
| 9月14日  | 教育委員会定例会                  | ・第3次計画策定状況について                    |
| 10月2日  | 県議会文教委員会                  | ・経過報告                             |
| 10月10日 | 総合教育会議                    | ・経過報告                             |
| 12月14日 | 教育委員会定例会                  | ・第3次計画原案決定                        |
| 1月18日  | 総合教育会議                    | ・経過報告                             |
| 1月18日  | 教育委員会定例会                  | ・パブコメの実施状況について                    |
| 2月6日   | 教育委員会定例会                  | ・経過報告<br>・パブコメの結果について             |
| 3月6日   | 県議会文教委員会                  | ・第3次計画（案）について                     |
| 3月13日  | 教育委員会定例会                  | ・第3次計画（案）について                     |
| 3月23日  | 部局長会議                     | ・第3次計画について                        |

## 2 これからの長野県教育を考える有識者懇談会委員名簿（◎は座長）

〔各委員の所属・職名は委員当時、敬称略、五十音順〕

| 氏名                     | 所属・職名                                      |
|------------------------|--|
| 浅 輪 佳代子                | 長野県P T A連合会監事                              |
| 伊 藤 かおる                | 株式会社コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長                   |
| 上 原 貴 夫                | 上田女子短期大学教授                                 |
| 大 森 けい子                | みずず幼稚園名誉園長、<br>一般社団法人長野県私立幼稚園・認定子ども園協会副理事長 |
| 鏡 味 洋 子                | 松本市立旭町小学校長                                 |
| 金 子 元 昭                | シナノケンシ株式会社代表取締役社長                          |
| 小 林 勉                  | 小諸養護学校長                                    |
| 小 林 り ん                | 学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン代表理事         |
| 近 藤 守                  | 長野市教育委員会教育長、長野県市町村教育委員会連絡協議会理事長            |
| 田 村 秀                  | 新潟大学法学部教授                                  |
| 中 村 隆<br>(平成29年4月より)   | 長野県高等学校P T A連合会副会長                         |
| 矢 花 久美子<br>(平成29年3月まで) |  |
| 中 村 礼 子                | 長野市立豊野中学校長                                 |
| 奈 須 正 裕                | 上智大学総合人間科学部教授                              |
| 西 澤 孝 枝                | 株式会社西澤電機計器製作所代表取締役                         |
| ◎平 野 吉 直               | 信州大学理事・副学長                                 |
| 保 坂 美代子                | 松本美須々ヶ丘高等学校長                               |
| 百 瀬 康 雄                | 松商学園高等学校長、長野県私立中学高等学校協会会長                  |

### 3 意見募集等の実施

(1) 教育長の学校訪問

平成 29 年 5 月から 10 月

県内の公立小中学校（544 校）の学校長（537 人）と懇談

(2) 市町村教育委員会との意見交換会（77 市町村、6 組合）

① 平成 28 年度

ア 開催日時 平成 28 年 7 月 19 日～8 月 8 日

イ テーマ ・学力向上に向けた県教委及び市町村教委の取組について  
・特別支援教育のあり方について

② 平成 29 年度

ア 開催日時 平成 29 年 7 月 18 日～8 月 8 日

イ テーマ 次期長野県教育振興基本計画について

(3) 総合教育懇談会（知事、県教育長と市町村長及び市町村教育長の代表との懇談会）

① 平成 28 年度

ア 開催日時 平成 28 年 11 月 21 日

イ テーマ 中山間地域における子どもたちの学びについて

② 平成 29 年度

ア 開催日時 平成 29 年 5 月 31 日、平成 29 年 11 月 6 日

イ テーマ ・中山間地域における子どもたちの学びについて  
・ICTを活用した教育について

(4) 関係団体との意見交換

①市町村教育委員会連絡協議会教育行政懇談会

ア 開催日時 平成 29 年 7 月 12 日

イ テーマ 第 3 次長野県教育振興基本計画について

②生涯学習審議会

ア 開催日時 平成 29 年 12 月 7 日

イ テーマ 第 3 次長野県教育振興基本計画について

③市町村教育委員会連絡協議会代議員会

ア 開催日時 平成 29 年 11 月 15 日

イ テーマ 第 3 次長野県教育振興基本計画について

## (5) その他意見聴取

| 名称                          | 開催日時                            | テーマ  | 参加者                                 |
|-----------------------------|---------------------------------|--|-------------------------------------|
| 「学びの改革 基本構想（案）」に係る高校生との意見交換 | 平成 29 年<br>1 月 15 日～<br>2 月 5 日 | ・これからの学びとその環境  | 高校生 61 校<br>192 人                   |
| 高校生（テックレンジャー）との懇談           | 平成 29 年<br>2 月 16 日             | ・地域活動を通して得たこと  | 飯田 OIDE 長姫高校<br>コンピュータ制御<br>部生 18 人 |
| 小布施若者会議<br>教育プロジェクトメンバーとの懇談 | 平成 29 年<br>3 月 20 日             | ・学びのインセンティブ～「興味を持たない子」に対して学校は何ができるのか<br>・10～20 年後の学校の在り方 | 教育プロジェクト<br>メンバー 9 人                |
| 県教育委員会と信州大学教育学部生との懇談会       | 平成 29 年<br>4 月 28 日             | ・『予測困難な未来』で生きていくために必要とされる力<br>・長野県の教員になったら実現したいこと        | 信州大学<br>教育学部生 8 人                   |
| 「たのめの里 夢プロジェクト」教育長と生徒の対談    | 平成 29 年<br>6 月 13 日             | ・2030 年の未来   | 全両小野中学校生                            |
| 学校を支える地域の関係者との意見交換会         | 平成 29 年<br>6 月 19 日             | ・中山間地域における地域と学校のあり方                                      | 美麻小中学校<br>学校運営協議会委員 11 名            |
| 県教育長と小学校・中学校の若手教員との意見交換会    | 平成 29 年<br>10 月 30 日            | ・学校現場における課題  | 若手教員 7 人                            |
| 県教育委員会と教員を目指す松本大学生との懇談会     | 平成 29 年<br>12 月 7 日             | ・長野県の教育を受けてみて、感じたこと<br>・長野県の教員になったら実現したいこと               | 松本大学<br>教員を目指す学生<br>12 人            |

参考資料

(6) 県政タウンミーティング

| 開催日時              | 開催場所 | テーマ                        | 参加者                                    |
|-------------------|------|----------------------------|--|
| 平成 28 年 5 月 17 日  | 飯田市  | 「全国一の数を誇る公民館を活かした多様な学びの創出」 | 県民 104 人                               |
| 平成 29 年 1 月 25 日  | 佐久市  | 「知事と語ろう 郷学郷就県づくり」          | 佐久長聖高等学校<br>(生徒、教諭)<br>23 人            |
| 平成 29 年 1 月 25 日  | 小諸市  |                            | 長野県小諸高等学校<br>(生徒、教諭)<br>ほか 80 人        |
| 平成 29 年 5 月 14 日  | 長野市  | 「知事と語ろう。10 年、20 年後の長野県」    | 28 人                                   |
| 平成 29 年 6 月 3 日   | 上田市  |                            | 23 人                                   |
| 平成 29 年 7 月 11 日  | 諏訪市  |                            | 27 人                                   |
| 平成 29 年 9 月 10 日  | 松本市  |                            | 33 人                                   |
| 平成 29 年 9 月 16 日  | 飯山市  |                            | 19 人                                   |
| 平成 29 年 10 月 21 日 | 佐久市  |                            | 26 人                                   |
| 平成 29 年 11 月 5 日  | 伊那市  |                            | 32 人                                   |
| 平成 29 年 7 月 22 日  | 飯田市  |                            | 「高校生が主体の楽しいまちづくり～地域人教育で羽ばたく高校生と支える地域～」 |
| 平成 29 年 12 月 16 日 | 松本市  | 「知事と高校生が語る 明日の信州」          | 中信地区高等学校生徒会(生徒)46 人                    |

(7) 県政ランチミーティング

| 開催日時              | 開催場所 | テーマ                     | 参加者                 |
|-------------------|------|-------------------------|---------------------|
| 平成 29 年 5 月 16 日  | 長野県庁 | 長野県におけるキャンプ振興           | 長野県キャンプ協会 10 人      |
| 平成 29 年 6 月 19 日  | 佐久市  | 文化芸術に親しむ人々の拡大と文化芸術団体の役割 | 長野県芸術文化協会 5 人       |
| 平成 29 年 7 月 22 日  | 飯田市  | 自治の担い手と支え手が育つ公民館活動      | 長野県公民館運営協議会 8 人     |
| 平成 29 年 9 月 22 日  | 長野県庁 | 命と愛と LGBT               | 命と愛と LGBT を考える会 7 人 |
| 平成 29 年 10 月 18 日 | 長野県庁 | 男性保育者が本気で考える信州の幼児教育     | 信州男性保育士ネットワーク 8 人   |
| 平成 29 年 12 月 7 日  | 長野県庁 | ガールスカウト活動の現状と課題         | ガールスカウト長野県連盟 5 人    |



(8) これからの長野県教育を考える有識者懇談会委員への意見照会

- ① 意見照会期間 平成29年12月15日から平成30年1月18日
- ② 意見の数 4件(3人)

(9) 市町村教育委員会、関係団体への意見照会

- ① 意見照会期間 平成29年12月15日から平成30年1月18日
- ② 意見の数 121件(18団体)

(10) 県民意見公募手続(パブリックコメント)

- ① 意見公募期間 平成29年12月20日から平成30年1月18日
- ② 意見の数 129件(16人)

### 3 用語解説

|                  |   |
|------------------|---|
| あ行               |   |
| アセスメント           | 情報を収集して系統的に分析することにより、児童生徒の示す行動の背景や要因を明らかにしようとするもの。  |
| イノベーション          | これまでのモノ・仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと。  |
| インクルーシブな教育       | 人間の多様性の尊重等の強化、障がい者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みのこと。障がいのある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。(障害者の権利に関する条約第 24 条の「inclusive education system」の署名時仮訳は、「包容する教育制度」) |
| エビデンス            | Evidence 物事を立証するための証拠や根拠のこと。  |
| か行               |   |
| 学カスパイラルアップ事業     | 児童生徒の学力向上のために、各学校が、文部科学省の全国学力・学習状況調査と県独自の学力調査を関連付けて学力実態を把握し、事業を改善していく P D C A サイクルづくりを、県が支援する取組。  |
| 学校評価             | 児童生徒がより良い学校生活を送れるように、教職員や学校関係者等が学校運営について評価し、改善に生かすために行うもの。実施手法としては、自己評価（すべての学校が取り組む）、学校関係者評価（取り組むことが望ましい）、第三者評価（必要に応じて取り組む）がある。   |
| 基礎的・汎用的能力        | 分野や職種に限らない社会的・職業的自立に向けた必要な力のこと。文部科学省・中央教育審議会が提示した。「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の 4 つからなる。   |
| キャリア教育           | 一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す教育。  |
| キャリア教育のプラットフォーム  | 市町村キャリア教育支援協議会を中心とし、家庭・地域の教育力を積極的に活用した、学校のキャリア教育を支援する仕組みのこと。  |
| 教育基本法第 17 条第 2 項 | 「地方公共団体は前項の計画（←国の教育振興基本計画）を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。」   |
| 「共育」クローバープラン     | 日々の暮らしの中で自分のあり方を見つめ、人との関わりの中で自分の持ち味を発揮していけるよう「本を読む、汗を流す、あいさつ・声がけをする、スイッチを切る」というような「不易」な実践を位置付けたもの。子どもたちも、教員も親も、長野県のすべての人々が共に学び共に育つことを願い、平成 14 年 4 月から実践している。  |
| 高大接続改革           | 高等学校教育改革、大学教育改革及び大学入学者選抜改革をシステムとして、一貫した理念の下、一体的に行う改革。   |
| 国際バカロレア (IB)     | International Baccalaureate 国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム。   |
| こどもエコクラブ         | 子どもたちが地域において主体的に環境教育や環境保全活動に取り組み、将来にわたり環境保全に対する高い意識を持つことを支援するために、公益財団法人日本環境協会が参加を呼びかけている環境活動クラブ。  |
| 子どものための音楽会       | セイジ・オザワ 松本フェスティバルの教育プログラムの一環として、長野県内の小学校 6 年生を招待して開催している演奏会。  |
| 子どもの貧困率          | 平均的な所得の半分を下回る世帯で暮らす 18 歳未満の子どもの割合。  |

|                    |   |
|--------------------|---|
| コーディネーター（コーディネート）  | Coordinator (Coordinate) ものごとを調整する者（こと）。人と人、あるいは様々な組織をつなぐことや、色々なジャンルの活動、事業に寄り添い、支援を行う人材。  |
| さ行                 |   |
| サテライトキャンパス         | 大学や大学院などが校舎以外の離れた場所に設置して授業などを行う施設。  |
| 持続可能な開発のための教育（ESD） | Education for Sustainable Development 平和、貧困、人権、環境など地球規模の課題を自らの問題として捉え、自分でできることを考え実践することを身に付け、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。   |
| 持続可能な開発目標（SDGs）    | Sustainable Development Goals 2015年9月に国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」に盛り込まれた17の目標と169のターゲット。   |
| しばふコンサート           | 松本文化会館の芝生広場等で開催している子どもも参加できる文化芸術の催し。  |
| 就業体験活動             | 高校生が将来の仕事等について考える一環として、企業や施設・農家等を自ら選んで仕事を体験する①「就業体験」のほか、②企業を訪問し、社員との交流や話し合いを通して、働くことや進路について考える機会とする「企業訪問」、③オープンキャンパスや大学訪問の際に、ある程度まとまった時間をとり、教官や学生との交流や話し合いを通して、働くことや進路について考える機会とする「大学インターンシップ」等を含めた活動のこと。 |
| 就労コーディネーター         | 障がい者雇用に関する知識・経験を有しており、一般就労を目指す特別支援学校高等部生徒の実習先の開拓やマッチング支援を行う人員。  |
| 授業がもっとよくなる3観点      | 県内の学校で授業の質的向上のために取り組んでいる3つの観点のこと。①「ねらい」を明確にした導入、②「めりはり」のある追究、③「見とどけ」によるねらい達成の確認。  |
| 情報モラル教育            | 情報に係る倫理的態度、情報に対して危険を回避し安全に向き合える能力、情報社会で適正な活動をするための正しい判断力及び実践力を育成する教育。   |
| 信州学                | 地域に根ざした「探究的な学び」の総称。   |
| 信州型コミュニティスクール      | ①学校運営参画②学校支援③学校評価機能を一体的・持続的に実施する仕組みを備えた、地域の特色を生かした実践を行う、学校と地域との協働活動を推進する学校。   |
| 信州型ユニバーサルデザイン      | すべての子どもがわかる・できるための授業づくりや環境づくりのための共通基盤となる内容。   |
| 信州子どもカフェ           | 学習支援や食事提供を核に、悩み相談、学用品のリユース等の様々な機能を持ち、継続的に開催する子どもの居場所の総称（愛称）。  |
| 信州やまほいく（信州型自然保育）   | 信州の豊かな自然環境と多様な地域資源を活用し、様々な体験活動を積極的に取り入れた幼児教育・保育として県が認定したもの。   |
| スクリーニング            | 迅速に結果が得られる簡便な検査などにより、集団の中から特定の疾病や障がい疑われる人を選びだすこと。   |
| スクールイノベーション        | 授業改善、働き方改革など、学校におけるこれまでの取組の見直しの総称。  |
| スクールカウンセラー         | 学校内における教育相談体制の充実のために、県内の公立学校に配置又は派遣する心の専門家（臨床心理士等）。児童生徒や保護者の悩みに対してカウンセリングや相談を行ったり、教員への助言等を行ったりする。また、東日本大震災により被災した児童生徒等の心のケア等も行っている。   |
| スクールソーシャルワーカー      | 様々な課題を抱えている児童生徒に対して、背景にある家庭や社会的要因をふまえ、社会福祉等の関係機関との調整を行いながら、児童生徒を取り巻く環境の改善を図る専門家（社会福祉士、精神保健福祉士）。   |
| スタートカリキュラム         | 小学校に入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定子ども園等の遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム。  |

参考資料

|                            |  |
|----------------------------|--|
| スーパーグローバルハイスクール（SGH）       | 将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に関する教育課程等の研究開発を行う高等学校等として、文部科学省から指定された高等学校等。               |
| せせらぎサイエンス                  | 川の流れや様子、水質の状況、水辺の生き物などの観察・調査を行う活動のこと。水辺には、いろいろな生物が生息し、それらの生き物を調べることによって、その場所の水質や水辺環境の状態を知ることができる。                                    |
| セルフケア、ラインケア、スタッフケア、専門家ケア   | メンタルヘルスを良好に保つための、自分自身で行う対策、上司や管理者が行う対策、職場内の医療・保健等関係スタッフによる対策、職場外の専門家（医療機関・相談機関）に依頼して行う対策、の4つの対策（ケア）のこと。これらの4つのケアを継続的・計画的に連携させて行っている。 |
| 専門高校                       | 職業学科等の専門的な学習を行う学校のこと。  |
| 総合型地域スポーツクラブ               | 「誰でも」「いつでも」「世代をこえて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツ」を楽しむことのできる地域住民が主体的に運営する総合的なスポーツクラブのこと。  |
| ソーシャル・イノベーション              | 社会的課題を解決するための新しい商品やサービスを開発すること。  |
| た行                         |  |
| 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+） | 学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに地域が求める人材を養成するために地方公共団体や企業等と協働して、教育カリキュラムを改革する大学を支援する文部科学省の事業。  |
| 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3   | 「地方公共団体の長は、教育基本法第十七条第一項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下単に「大綱」という。）を定めるものとする。」                        |
| 中間教室（教育支援センター）             | 不登校児童生徒等に対する指導を行うために、教育委員会が教育センター等学校以外の場所や学校の余裕教室等において学校生活への復帰を支援するため、児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う組織として設置したもの。 |
| 中間支援組織                     | 都道府県体育協会等が主体となり、都道府県のクラブ間ネットワークと連携・協働して総合型クラブの自立的な運営の促進に向けた支援を担う組織。  |
| 中山間地域リーディング・スクール           | 中山間地域の学校の特性を活かしながらICTの活用や異学年による授業を行う等、新しい「学び」を実践する授業スタイルを開発するために、総合的な取組を行うモデル校。  |
| 通級指導教室                     | 通常の学級に在籍し、一部特別な指導が必要な児童生徒に対して、障がいによる学習上・生活上の困難を改善・克服するための指導を行うための教室。   |
| デュアルシステム                   | 学校での授業とともに産業現場での長期の就業体験を教育課程に位置付け、地域に貢献する人材を育成する教育の仕組み。  |
| 特別支援教育コーディネーター             | 各学校における特別支援教育の推進のために、学校内の関係者や福祉・医療等の関係機関との連絡調整及び保護者からの相談窓口等の役割を担う教員。   |
| な行                         |  |
| 長野県スポーツコミッション              | スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」人々を県内に呼び込み、官民が一体となり機動的にスポーツ大会、スポーツ合宿の誘致を推進することにより、地域経済の活性化を図ることを目的に平成28年に設立された団体。                               |
| 長野県中学生ネクストリーダーズ・プロジェクト     | 生徒会等におけるリーダーとしてのあり方を学ぶことにより、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、次世代を担う地域のリーダー候補を育成するための、県内の中学2年生を対象にした取組。  |
| 長野県版運動プログラム                | 子どもの運動習慣づくりを通して、体力・運動能力の向上を計るとともに、コミュニケーション能力等社会性の発達を促し、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送る基盤を培うことを目的に作成された幼児期から中学生期までの成長段階に応じた長野県オリジナルの運動プログラム。    |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 長野県幼児教育振興プログラム    | 「0歳からの信州子育てのために」と題して、「幼児の望ましい発達」、「幼保小連携」、「地域で子どもを育てる環境」を柱とした幼児教育振興に向けての総合的な実施計画（平成17年3月作成）。  |
| ナショナルスタンダード       | 学校設置基準や学習指導要領など、国が設定する基準や制度。   |
| ニュースポーツ           | 年齢や性別、技術、体力、ハンディキャップの有無にかかわらず、誰もが手軽に楽しむことができる比較的新しいスポーツで、新しく我が国で考案されたり、諸外国から導入されたりしているスポーツの総称。マレットゴルフ、ゲートボール、ペタンク、インディアカ、カローリング、フロアホッケーなどがある。  |
| は行                |  |
| ファシリテーター（ファシリテート） | Facilitator (Facilitate) 進行、促進を行う者（こと）。様々な学習や議論の場などにおいて、状況に応じて、目的までに至る過程の促進を担う人材。  |
| 副次的な学籍            | 特別支援学校に在籍する児童生徒と、居住地の小・中学校の児童生徒の交流及び共同学習の充実を図るために、居住地の小・中学校に副次的な学籍を置く仕組み。副次的であっても、居住地の小・中学校にも「籍」を位置付けることにより、同じ地域の仲間としての意識を高め、交流を継続的に進めるための仕組み。 |
| フリースクール           | 不登校児童生徒の学校復帰や進路希望の実現に向けて取り組んでいる民間施設等。  |
| 放課後子ども教室          | 放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を行う取組。  |
| 放課後児童クラブ          | 共働き等で保護者が昼間家にいない小学生の児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供して、その健全な育成を図ることを目的とする施設。  |
| ま行                |  |
| マネジメントリーダー 教員     | 通常学級において発達障がい等支援が必要な児童生徒等多様な子が力を発揮できるように、担任に対して学級づくりや授業への助言等を行うとともに、チームとして課題解決していく力を高め、関係者をつなぎ、地域をリードしていくために配置する教員。                            |
| みどりの少年団           | 次代を担う少年少女がみどりに関する様々な取組を通じ、みどりに対する理解を深め、様々な活動を実践できる人となるよう育成するための組織で主に小・中学生で構成されている。   |
| メディアリテラシー         | 情報活用能力のこと。情報を読み解き、適切に活用できる力であり、①情報活用の実践力 ②情報の科学的理解 ③情報社会に参画する態度の三観点からなる。情報モラルは、前記の③に含まれる。  |
| 英字                |  |
| A I               | Artificial Intelligence 人工知能。人間の言語を理解したり、論理的な推論や経験による学習を行ったりするコンピュータプログラムなど。   |
| I C T             | Information and Communications Technology<br>情報通信技術。情報技術の「I T (Information Technology)」に通信の「C (Communications)」を組み合わせた用語                       |
| I o T             | Internet of Things モノのインターネット。あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、又はそれを可能とする技術の総称。  |
| P D C A サイクル      | 改善と充実を図るサイクルのこと。計画 (plan)、授業改善を実行 (do)、授業改善を評価 (check)、さらなる改善 (action) の頭文字をとったもの。   |
| S N S             | Social Networking Service 人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供する、インターネット上のサービス。  |
| Society5.0        | 国の第5期科学技術基本計画に掲げられている「狩猟社会」、「農耕社会」、「工業社会」、「情報社会」に続く、「超スマート社会」の実現に向けた一連の取組。   |

参考資料

|            |   |
|------------|---|
| SWANプロジェクト | Superb Winter Athlete Nagano プロジェクト。国のスポーツ基本計画及び長野県スポーツ推進計画に沿った競技力向上の視点に立ち、1998年開催の長野冬季オリンピックの遺産である人的・物的・環境資源を最大限に活用しながら、子どもたちに世界で活躍する競技者となる「夢とチャンス」を与えることを目的としたプロジェクト。JOC（日本オリンピック委員会）、JISS（国立スポーツ科学センター）等と連携を図りながら、世界に挑戦する競技者育成に必要なプログラムを提供し、スキー、スケート、カーリング、ボブスレー、リュージュ、スケルトン競技において、日本を代表し、世界で活躍する冬季オリンピックメダリストを見出し、育成することを目指す。2009年より1期生の育成を始める。 |
|------------|---|